

JSPS Information

- ◇日本惑星科学会第34回総会議事録
- ◇日本惑星科学会第85回運営委員会議事録
- ◇日本惑星科学会第86回運営委員会議事録
- ◇日本惑星科学会第87回運営委員会議事録
- ◇日本惑星科学会賛助会員名簿

◇日本惑星科学会第34回総会議事録

日 時：2010年10月7日(木) 16:30-17:40

場 所：名古屋大学東山キャンパス 野依記念学術交流館
愛知県名古屋市中種区不老町

正会員数：612名

定 足 数：61名

出 席 者：102名

委 任 状：104通(議長：102, 佐々木晶：1, 林祥介：1)

1. 開会宣言

城野総務専門委員長が開会を宣言。

2. 議長団の選出

議長に小林直樹会員，書記に大竹真紀子が運営委員会から推薦され，了承された。

3. 議 事

3.1 第10期下期中間報告

中本財務専門委員長より財務中間報告が行われた。おおむね予定通り執行している。サーバ更新用費用が予算をオーバーし、超える分は分割払いを検討中である。

荒川情報化専門委員長より新サーバ導入に関する現状説明があった。予定通りに新サーバ運用開始ができなかった。理由は、入会申し込み関連のバグ出しに時間がかかり、またハードウェアの故障によるシステムダウンがあったためである。現状部分的に新サーバで運用中。今後はレンタルサーバの運用方針を決定し、その後に新サーバへの移行を年内に行うことを予定している。ソフトウェアの準備もほぼ終わっている。開発予算は200万円であったものが現状260万円となっている。財務と調整中。

採択

第10期下期活動報告の採択が行われ、賛成多数で了承された。

3.2 第11期上半期予算案

中本財務専門委員長より第11期上半期予算案の説明があった。サーバ開発に今後毎年30万円の支出が新たに必要となる。第10期下期におけるサーバ更新の分割払い残額を増額し、他の支出を圧縮することで対応を考えている。特別会計は例年通りである。

Q：遊星人を減額する見込みはあるのか？

A：ここ1, 2年の実績からは可能な数字と考える

採択

第11期上期予算案の採択が行われ、賛成多数で了承された。

4. 報告事項

4.1 自然災害に伴う会費免除措置について

中本財務専門委員長より自然災害に伴う会費免除措置を例年どおり行うとのアナウンスがなされた。

4.2 学会賞授賞式：2010年度最優秀発表賞審査結果発表および表彰状贈呈

4.2.1 審査結果発表

議長より2010年度最優秀発表賞の受賞者が荒川雅会員と発表された。

4.2.2 表彰状贈呈

渡邊副会長より表彰状と副賞が荒川雅会員および関根康人会員(2009年度最優秀研究者賞)に贈呈された。

4.2.3 審査講評

松田学会賞選考委員長により、荒川雅会員の受賞理由の説明があった。

4.3 2010年度秋季講演会の報告

渡邊名大LOC委員長より、2010年度秋季講演会の報告があった。参加者事前登録120名、当日登録44名、口頭発表85件+1(特別講演)、ポスター 44件であった。

4.4 2011年度秋季講演会の案内

加藤ISAS/JAXALOC委員長より、2011年度秋季講演会の案内があった。期間は2011年10/23-25であり、会場は相模女子大となる予定である。

4.5 役員選挙の案内

城野総務専門委員長より、役員選挙を12月に実施するとのアナウンスがあった。

4.6 その他

永原会員より、大型研究計画を巡る最近の動向について説明がなされた。

- ・2007年4月学術会議により、大型研究について長期的マスタープランが必要との提言があった。
 - ・2008年夏 大型研究(探査だけでなくすべての大型研究が対象)マスタープラン作成着手。
 - ・2008年秋冬 主に共同研究利用研究所中心にアンケート実施、100件以上が提案される。その後ヒアリングが実施された。
 - ・2010年春 マスタープランの提案(地球、固体、生命、探査、SCOPE)。
 - ・2010年6月14件のうち9件が学術会議リストから補助対策事業として採択された。
 - ・2010年9月18件が大型プロジェクトの推進として選定される。地球惑星科学からはSCOPEのみ選定。学術会議として改訂版の作成を決定。新規提案募集中で今後応募案の検討予定。多くの方からの応募を望む。
- 春山会員より、月惑星探査の来たる10年への提案がなされた。
- ・現在の検討会の進め方の課題として、リソースを抜きの検討は有効性に欠け、責任と権利があいまい。
 - ・検討案をミッションとして実現するためのプロセスが不確定。
 - ・上記理由により一度現在の検討を止めて、多くの人がミッションを議論する場をつくり、すでに動いているミッションに参加し、それらミッションをよりよいものにすることを考えてはどうか。またすでに得られているデータを利用することも考えるべき。
 - ・探査に関わる人の人事交流が必要。
 - ・既存のミッション提案スキームを改定する努力をする。
 - ・1-2年かけてもアンケートをとるなどして幅広く進め方を議論するべき。

5. 議長団解任

6. 閉会宣言

◇日本惑星科学会第85回運営委員会議事録

期 間：2010年9月7日(火)～9月21日(火)

議 題：月科学研究会の設置の承認，専門委員会委員の追加承認

運営委員会委員：

(出席者)22名

井田茂，林祥介，渡邊誠一郎，杉田精司，永原裕子，倉本圭，佐々木晶，荒川政彦，中村昭子，中村良介，城野信一，渡部潤一，中本泰史，三河内岳，小久保英一郎，出村裕英，橘省吾，並木則行，はしもとじょーじ，小林直樹，山本哲生，田中秀和

(欠席者)1名 高橋幸弘

成立条件：期間内に議決返信のあった者を委員会出席とみなす

議決方法：上記期間内にe-mailにより投票

議題1：月科学研究会の設置の承認

賛成多数により議題は承認された。賛成：22，反対：0

小林直樹運営委員による説明：

設置目的：月科学の推進と将来の月探査のコーディネート

提案者：荒井朋子，荒木博志，石原吉明，唐牛譲，大竹真紀子，倉本圭，小林直樹，佐伯和人，杉原孝充，並木則行

活動内容：

- ・メーリングリストを活用して月科学に関する議論や意見交換を行う
- ・月科学，月探査に関するセミナーや研究会を開催する
- ・「かぐや」データを中心とする月探査データを用いた月科学・教育の涵養

設立主旨：

会長談話にありましたように月周回衛星「かぐや」は1年4ヶ月の間月周回軌道から数多くの鮮明な画像，近赤外からガンマまでの各種波長帯における分光観測データ，磁場，重力，測地データを我々にもたらし，数々の科学成果を挙げてきました。月探査は周回衛星からのリモートセンシングの成功を得て，着陸探査，サンプルリターン探査など次のステップに向けて進みつつあります。しかし，一方で「限られた予算の中，何故今月なのか？日本が月探査を進める理由は何なのか？」という問いかけがなされております。こうしたナイーブな問いかけに真摯に答えて行くには月科学・月探査を推進する研究者相互の意見を切磋琢磨する場，有機的にアイデアを膨らませる場が必要であると考えております。また，「かぐや」は科学衛星としては成功してまいりましたが，そのデータの利用に関して，月科学のコミュニティの拡大や教育などに関しての取り組みはまだまだ十分ではありません。月科学コミュニティの足腰をしっかりとしたものとするためにも，「かぐや」のデータ利用の促進も欠かせません。

以上の理由により，月科学コミュニティの活動を促進するために，惑星科学会のサーバー機能を利用したいと考え，この度「月科学研究会」の設立提案を致します。

議題2：専門委員会委員の追加承認をお願いしたい。

賛成多数により議題は承認された。賛成：22，反対：0

財務専門委員会 荒井朋子

◇日本惑星科学会第86回運営委員会議事録

日 時：10月6日(水) 18:00～21:00

場 所：名古屋大学東山キャンパス野依記念学術交流館

運営委員会委員：

(出席)井田茂, 林祥介, 渡邊誠一郎, 杉田精司, 永原裕子, 倉本圭, 佐々木晶, 荒川政彦, 中村昭子, 城野信一, 渡部潤一, 中本泰史, 小久保英一郎, 出村裕英, 橘省吾, 並木則行, はしもとじょーじ, 高橋幸弘, 小林直樹, 山本哲生, 田中秀和

(欠席)三河内岳(委任状有), 中村良介

オブザーバー：田中智(ISAS/JAXALOC),

松田佳久(学会賞選考委員長)

議 題：

1. 会計第10期下期中間報告

中本財務専門委員長よりほぼ予定どおり執行との報告があった。

遊星人は3号分で120万円。サーバ更新費用として200万円を見込んでいたが260万円となった。60万円は次年度以降に支払予定(5年で分割)である。質疑応答の後、中間報告は了承された。

2. 会計第11期上期予算案

中本財務専門委員長より第11期上期予算案について説明があった。

収入：賛助会員減のため減少した。これが収入減の大きな要因であり、650万円の予測。

支出：サーバ関係の費用の分割払い分が増加した。また、継続的に改良を加えるための費用も必要となる。今後5年間はこの二つの要因でプラス40万円ほど増になる見込みである。その分他の予算を削減した。遊星人の印刷費を20万円減。フロンティアセミナー 25万円から10万円に減額した。

質疑応答ののち、予算案は了承された。

匿名の方から寄付金を頂いたとの報告があった。遠方からの旅費に使ってほしいとの希望である。アナウンスしたのが遅かったため、希望者は今年度はいなかった。使途については今後財務委員会で検討することとなった。

3. 自然災害に伴う会費免除措置について

中本財務専門委員長より適用基準について説明があった。OMLでアナウンスを行った。自然災害に伴う会費免除措置を今年度も行うことが了承された。

4. 学期賞受賞者の決定

松田学会賞選考委員長から、荒川雅会員を受賞者とすることが報告された。受賞理由の概要が説明され、了承された。

5. 行事部会委員の追加承認

出村行事部会長より説明があり、大竹真紀子会員が行事部会委員として追加承認された。

6. 2012年秋季講演会について

出村行事部会長より中川委員長、大槻総務で神戸大学で開催との案が出され、了承された。

7. 学会サーバー開発状況

荒川情報化専門委員長より報告があった。当初予定していたスケジュールについて説明があり、現行サーバのトラブルにより開発が遅れている。現在の新サーバの状況、今後の予定について説明があった。移行時期は10月中を目指す。質疑応答の末、学会サーバー開発状況の報告は了承された。

8. 10年パネルの進行状況

・10年パネルの進行状況：

並木将来惑星探査検討グループ長より、10年パネルの進行状況について説明があった。活動の経過報告がなされた。パネルリーダーと相談して第一段階の期間を延長する必要があるようである。トップサイエンスの抽出の順位付けは行わない。これらの内容について、7日の昼休みの時間に中間報告して質疑応答を受ける。総会でも報告する。また、月惑星の来たる10年と独立な対案を春山会員が総会で提示する予定である。この対案については、まだ内容がわからないため、総会の議題とはしないで意見として述べてもらうこととなった。はしもと委員より、惑星科学会がサイエンスを抽出して意見をまとめることに対して、その影響力を心配する声があることが述べられ、議論が行われた。惑星科学会に意見を発する場は必要であり、コミュニティが自分たちの力で将来を見るのは健全で大切との意見が出た。惑星科学会のスタンスを理解してもらう必要がある。惑星科学会の思う影響力と、外が思うものには違う可能性があり、現実にはちぐはぐにならないために、他組織の運営委員会などときちんと話し、連携していく必要がある。

・大型研究計画を巡る最近の動向について：

永原委員から学術会議大型研究マスタープランが作成された過程とその結果について報告があった。当初の過程では共同利用研究所等のみの意見が集められ、広くコミュニティに語りかけられなかったのが問題だった。改定版の作成が決定されている。11月15日が受け付け開始であり、12月には提案する必要がある。地球惑星分野は、前回で遅れた印象が強いので、個別提案をとにかく出してほしい。パブリックコメントも大切であり、声を上げなければいけない。

9. 2011年の秋季講演会、学会賞実施提案等

田中2011年秋季講演会LOCより、2011年秋季講演会開催と体制について説明され、了承された。

開催日としては、10月23日(日)－25日(火)を考えている。他の学会とはかぶらない。開催場所は相模原女子大学翠葉(すいよう)会館で、相模大野駅から歩いて10分程度でアクセスしやすい。通勤経路と逆で楽であり、周辺に宿泊施設充実している。食堂は収容が厳しいが、付近に食べる場所は豊富にある。会場にLANなし。必要なら一時的な設置を検討する。懇親会場は未定。実行委員長を加藤学、総務を田中智、総務補佐を大竹、懇親会会場を安部、三谷、春山、財務を岩田、会計を白石、プログラムを岡田、矢野、小林、飯島、情報(サーバ管理)を早川、ウェブマネージャを小川とした実施体制で開催する。ウェブマネージャの承認に関しては田中から提案文書を提示し情報化専門委員会にて諮る。今後の連続性のことも考えると、ウェブマネージャには学生が入るとよいとの意見が出たが、宇宙研は学生が少ないという特性があることが説明された。続いてこれまでの例を参照した予算案の説明がなされた。収入、支出、各約60万円。一般公演については実施方向だが、場所、日程はTBD。一般公演諸経費3万円。講演者は学会員の中からボランティアでお願いしたい。

10. その他

・The3rdMESSENGER－BepiColomboJointWorkshopの共催について

佐々木委員から、2011年9月5日－6日に京都大学で開かれるワークショップについて、JAXAの水星探査のグループからの共催の依頼について説明があり、共催は承認された。学会の費用負担はなし。

・来年度連合大会について

永原日本地球惑星科学連合連携専門委員会委員長から、惑星科学セッションの提案をしてほしいと話があった。

・総会の議長、書記について

第34回総会の議長として宇宙航空研究開発機構の小林直樹会員、書記として宇宙航空研究開発機構の大竹真紀子会員が推薦され、了承された。

報告：

1. 入退会状況

城野総務専門委員長より入退会状況について報告がなされた。

会員数は定常状態で600人程度。賛助会員は5社。昔、現行サーバーに移った時に、データ移行してない人が36名いる。新サーバーに移行すると、データは移行されるがパスワードなどは設定されていないままとなる。問い合わせがあった時点で個別に対応する。

2. 遊星人の発行状況

田中編集専門委員会委員長より遊星人の発行状況について説明があった。順調に発行が進んでいる。6月号、9月号を出した。

阿部先生によるフロンティアセミナーテキストが終了した。12月号は初期太陽系物質科学の最前線の特集、月科学特集2など。各種記事を募集している。来年度体制について、編集委員会としては編集委員長の交代を提案したい。

3. 秋季講演会報告

渡邊2010年秋季講演会LOC委員長より、2010年秋季講演会開催状況について報告がなされた。124名がWeb登録し、当日登録が38名の状況である。

◇日本惑星科学会第87回運営委員会議事録

期 間：2010年10月19日(火)～10月25日(月)

議 題：選挙管理委員会の承認

運営委員会委員：

(出席者)23名 井田 茂、林祥介、渡邊誠一郎、杉田精司、永原裕子、倉本圭、佐々木晶、荒川政彦、中村昭子、中村良介、城野信一、渡部潤一、中本泰史、三河内岳、小久保英一郎、出村裕英、橘省吾、並木則行、はしもとじょーじ、高橋幸弘、小林直樹、山本哲生、田中秀和

(欠席者)なし

成立条件：期間内に議決返信のあった者を委員会出席とみなす

議決方法：上記期間内にe-mailにより投票

議 題：選挙管理委員会の発足および委員の承認をお願いしたい。

賛成多数により議題は承認された。賛成：23、反対：0

選挙管理委員会委員

城野信一(委員長)、平田成、長沢真樹子、日高宏、伊藤孝士、台坂博

◇日本惑星科学会賛助会員名簿

2010年12月25日までに、賛助会員として本学会に御協力下さった団体は以下の通りです。社名等を掲載し、敬意と感謝の意を表します。(五十音順)

アメテック株式会社カメカ事業部

シャープ株式会社

有限会社テラパブ

株式会社ニュートンプレス

(財)リモート・センシング技術センター